

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600082
法人名	有限会社 おはな
事業所名	グループホームいちょうの杜 諏訪野 ユニット名 わかば
所在地	福岡県久留米市諏訪野町2170-19
自己評価作成日	平成24年 1月 3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年1月12日	評価結果確定日	平成24年3月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1) 地域の方や自治会との交流があり緊急時の協力体制が確立しています。
2) 法人内(5施設)と他のGHで合同の大運動会を年1回家族を招待して行っています。 (各ホームの応援合戦等大変盛り上がり家族も一緒に楽しんでいます)
3) 全面的に介助が必要な方が4名生活されていますが、褥瘡形成は現在ありません。 (入所時に褥瘡ステージ の方がいらっしゃいましたが完治しております)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

以前より地域の方々との協力体制が取れており、地域の行事に参加させてもらうことはじめ、ホームでの行事にも参加してもらっており、地域の中に根付いたホームとなっている。昨年ホームで開催した避難訓練には、地域から10数名の参加があり、利用者の誘導を手伝ってもらったり、AEDの使い方を学んでもらう機会となった。昨年は市内にある同系列のグループホーム5ヶ所と、他のグループホーム2ヶ所が集って運動会を開催。家族も参加され、総勢150名程の大運動会となり、利用者、家族共に好評であったため、今後も継続して行っていく予定である。 「利用者職員がいつも和気藹々と過ごしています」と職員が胸を張る姿を見ながら、まさにそうであることを当日訪問時に確認することが出来た。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内に掲示し、朝の申し送り時には唱和するなど、常に理念を意識してサービスを提供出来るように環境を整えている。また、理念の共有と実践について不十分な点があるため、更にサービスの提供を実践したい。	ミーティングや朝礼の時間に唱和することを始め、職員全員が、折に触れて理念を共有、意識するように心掛けており、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オーナー自ら積極的に近隣との交流を深めている。また自治会と共同で、当ホームにて消防訓練を実施するなど、地域の一員として交流を図っている。	地域のお祭りや敬老会等の行事に参加したり、ホームの行事にも地域の方に参加してもらったりしている。また、演芸や大正琴、活け花のボランティアにも来てもらっており、日常的に交流する機会が持たれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の時にホームを地域の方への憩いの場としての提供を行っているが実際にはおこなえていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、入居者様の生活状況や事故等の事例、当ホームの取り組み等を報告し、頂いた意見については、共有し課題として取り組んでいる。	自治会長や民生委員、地域包括支援センター職員、市職員、利用者の家族代表等が出席して、2ヶ月に1回開催している。ホームからは、活動報告やヒヤリハット等含めた状況報告を行っており、地域の参加者からは、地域の情報や行事案内等があり、双方の情報や意見交換の場となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の状況報告や相談等を行っている。GH部会へも参加しており研修についても市と連携をとりグループホームの質の向上をめざしている。	市担当者とは、運営推進会議や事業所協議会の勉強会等で年中顔を合わせている状況であり、何かあればいつでも相談、協力することが出来るような関係が出来ている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講習や施設内での勉強会にて身体拘束についての理解を深めている。必要な場合が迫られた時は委員会を中心に話し合いを行い、「しないケア」を考え取り組むようにしている。必要な場合には家族へ説明し理解、承諾を得て書類作成後に施行している。	昨年の4月より、法人内で身体拘束ゼロ対策委員会を発足、毎月委員会を開催している。また、ホーム内でも、事例を通じた研修を行ったり、ミーティングの中で委員会での話を伝達したりしながら、職員に対する周知を図っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の精神的ストレスが虐待へ繋がる要因にもなるため、管理者による職員一人ひとりのケアを通じ施設全体のよりよい雰囲気作りに努め職員同士が信頼と安心しあえる関係を築くように取り組んでいる。		

福岡県 いちよの杜 諏訪野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を実際に利用されている方がいます。勉強会や研修会にも参加しています。資料も用意しており必要な方へは関係各所と連絡を取り合い支援するようにしています。	外部の研修やグループホーム部会の勉強会に参加したり、法人内で勉強会をする等しながら、制度についての知識を深めている。パンフレットも準備しており、必要があればいつでも情報提供できるようにしている。現在実際に利用している方がいる状況である。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項等(看取り等)の説明を行い、十分に納得頂いた上で契約を行っている。特に入院等での部屋の確保についてはDr・Ns・ご家族で納得のいくまで話し合っている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市の介護相談員さんが毎月来訪されておりいろんな意見が聞けるようになってきた。ホーム内にも苦情相談窓口を設けている。また、ホーム内での対応不可であれば本部へあげて対応している。	家族会を開催しており、意見や要望を出してもらう機会としている。また、市の介護相談員の受け入れも行っており、利用者の意見や要望を聞いてもらい、何か意見があればホームに報告してもらうような体制を取っている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見や提案等を聞いている。また、必要であればグループ全体での会議へ提案し検討している。	普段の日常的な会話の中から、職員の意見や提案は多く出ており、その都度解決に向け検討している。また、月1回ミーティングを開催しており、そこでも意見や提案を出してもらえるようにしている。以前、お昼の休憩時間の確保について意見が出て、実際に改善を行い、今は十分な休憩時間が取れている状況である。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人内やホーム内で定期的に勉強会を行ったり外部研修へも参加を促している。資格を習得する事で給与に反映する事等を伝えている。今年度は“会計”“介護”の2つの勉強会が法人内でスタートしており希望者が時間外で参加している。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別を理由に不採用を決定していない。現在は20代～70代のスタッフが勤務している。その年代にしか出来ない対応やケアに取り組んでもらっている。今年、施設実習生からの採用が決定している。	職員の採用にあたっては、年齢や性別、資格等で採用から排除することはない。本人の人格や熱意を重視しており、実際に先日、実習に来ていた生徒の笑顔や明るさに惚れ込んで、ホームの職員へとスカウトした経緯もある。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	“人権問題”“虐待”についてはホーム内で常に話題にしている。“利用者さん第一”を心がけてケアを行うように取り組んでいる。	人権のことについては、勉強会で取り上げたり、ミーティングの中で話をしたりしながら、啓発に努めている。特に言葉使いについては、もし気付いた時は職員同士がお互い注意し合っ、利用者に対する尊厳を損なわないように気をつけている。	

福岡県 いちよの杜 諏訪野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内やホーム内で定期的に勉強会を行ったり外部研修へも参加を促している為研修を受ける機会が多い。現在、法人全体で職員のレベルに合わせた研修計画を検討しており早急に導入したいと考えている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会へ参加しており職員も交代で研修や交流会等へ参加する機会がある。更に地域密着型交流会へも2ヶ月に1回参加しており事例発表等を行い情報の交換等を行っている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受け持ちスタッフを決めることで密にコミュニケーションを図る事が出来るように看護師や管理者もサポートし信頼関係を築いている。受け持ちスタッフが主に対応することで本人とのスムーズな意思疎通を行うことが出来る。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	受け持ちスタッフを決定し家族への紹介を行い積極的にコミュニケーションを図りより良い信頼関係を築くことに努めている。信頼関係を確立することでどんな小さな事でも訴える事の出来る環境へと繋げている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が何を必要としているかを正しく理解し様々な職種のスタッフとのネットワークを築いておくことで必要としている支援を提供することが出来るようにと取り組んでいる。		
20		本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が出来る事や得意な事はやってもらったり教えてもらいながら共に支え合う関係を築いている。楽しく会話したり一緒にレクリエーションや家事手伝い等の作業をしている。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時一緒に散歩して頂いたり、行事等家族と共に一緒に過ごす時間をもてるように取り組んでいる。昨年はクリスマス会を行い家族と一緒に食事や演奏会等を楽しんで頂いた。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の希望や家族の了解があれば知人や友人等の面会も可能である。現に知人と外出されている方もいらっしゃる。	友人がホームに遊びに来られたり、友人の家に遊びに行ったりと、これまでの関係が途切れないように支援している。また、家族と外泊を楽しんだり、元々のいきつけの美容室に行かれることもあり、馴染みの場へ出掛けていく機会も持たれている。	

福岡県 いちよの杜 諏訪野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤独にならないよう一緒にゲームをして頂いたり家事手伝い、体操をして頂いて仲良く過ごせるよう努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者のご家族が知り合いを紹介をされたり一度退所された方の再入所も実際にある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや考えを尋ねてその内容を把握し本人の意向に合った住みよい環境を検討している。	周りが静かな夜間帯、公文を行っている時等に、利用者と職員が1対1になることが多く、そのような場面で思いや希望を話されることが多いので、そのような場面作りを行い、意向を把握出来るよう努めている。	利用者の思いや意向を把握した内容について、記載する欄がアセスメント用紙に設けられていなかった。アセスメントに残しておくことで、職員間での情報共有がさらに取りやすくなるのではないだろうか。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのリズムに合わせて生活を楽しんで頂きホームでより良い生活が出来るようなサービスに努めている。日々の生活の中で知り得た情報もスタッフ間で共有している。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族から情報を収集し一人ひとりの毎日の過ごし方等の様子を観察して現状を把握した際に記録に残し職員間で情報を共有している。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決め本人、家族の意向や希望等を尋ねケアプラン等を作成して毎月モニタリングを行い見直しの時期は担当者会議を行い現状に応じた介護計画を作成している。	利用者や家族の意向について事前に聞いた上で担当者会議を開催し、それぞれの担当者が計画を作成し、最終的にケアマネジャーが内容を確認するようにしている。主治医の意見についても、看護師が事前に聞いており、その内容を計画にも反映させている。	モニタリングに記載されている内容を見ると、どの項目に対して、どのような判断を行ってチェックをするのかがわかりづらかった。必要な部分は残しつつ、省略できる部分もあるならば、そこを省いていく等、記録の手間を減らしていく工夫も必要ではないだろうか。
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録を作成していく中で職員全員が状況を把握出来るようにしている。又申し送りノートを活用したり、夜間の状況は朝の申し送りにて情報の共有に努めている。		

福岡県 いちよの杜 諏訪野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況を把握し状況に応じて施設側の支援、家族側の支援を考えている。状況に応じて臨機応変に対応するようにしている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防署と連携並び周辺地域の方々を含めて防災訓練を行ったりハーモニカ演奏や生け花のボランティアの方が見えたり地域の敬老会へ参加したりして地域の方との交流を図っている。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医についての説明を行っている。利用者の状況に応じて変更も有る。その際も十分な説明の上納得が得られた状況で適切な医療が受けられるよう支援している。	利用者と家族の希望を聞きながら、適切な医療を受けることが出来るように支援しており、かかりつけ医についても、入居時に説明して決定してもらっている。受診の結果についても、何か変化があった際には、必ず家族に連絡するようにしている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の少しの変化でも必ず看護職員に報告する事により、医療や健康管理に繋がっている。急変対応も迅速に行えるようにしている。現に訪問看護を利用し安心して生活が出来るように支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	医療関係、ご家族、ご本人、ホームの看護職員、ケアマネ、管理者等が話し合う機会を設けて対応している。退院後も安心して生活が出来るように情報の共有を行っている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた支援をカンファレンスを行い全職員で意見を出し合いどのようにして本人にとって1番良い方法なのかを話し合い家族にも伝え全職員で支援していけるように取り組んでいる。	主治医や看護師と連携を取りながら、家族の希望を十分に踏まえた上で、職員全員で話し合いながら終末期に向けた支援を行うようにしている。環境を変えてみたり、音楽をかけてみたりと、それぞれの利用者の状態に応じた看取りが出来るように支援している。希望があれば、家族の宿泊も可能である。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	合同勉強会などで急変や事故発生時の対応の仕方など意見を出し合い素早い判断が出来る様に行っている。		

福岡県 いちよの杜 諏訪野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方々、利用者、全職員での避難訓練を行っている。スムーズに避難するために消防の方から指導を受けるなど行っている。又非常持ち出しチェックリストを作成し設置している。	年2回、避難訓練を行っている。昨年の訓練の際には、地域の方々から15名程参加され、利用者の誘導を手伝ってもらった。また、毎月の誕生会の際の移動の場を、避難訓練を兼ねたものとしており、平日頃より避難方法を身につけることが出来るように工夫している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに対しての言葉遣いや言葉かけに注意して対応するようにしている。また、個人情報等守るように介入時や声かけ時は最大限の配慮をするようにしている。	利用者の前で、他の利用者の情報を話したりしないように気をつけている。申し送りの時も声を小さめにする等、注意を払っている。また、それぞれの名前が入ったファイル類についても、目に付かない場所に保管するようにしており、プライバシーの確保に努めている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望に対してスタッフ側が判断するのではなく本人と話し合いもしくは家族に相談等行い自己決定出来るような声かけを行っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日1日の表情や動きなどを見たり希望などを聞いたりしながらその利用者らしい1日が過ごせるよう支援出来るよう工夫している。大まかな流れはあるが強制的な日課はない。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容室を利用したり行きつけの理容室など職員と一緒にしている。希望あれば衣服、化粧品を職員と買いに行かれ選んでもらっている。好む方にはマニキュアを塗ったり衣服のボタンが外れた場合利用者にボタン付けをお願いしている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に食べたい物を聞いて献立を考えている。食事の時間には花壇で摘んだ花を飾ったり音楽を流している。2階の利用者にはメニューを書いてもらったり1階から2階へ運んでもらったり出来る方には食器洗いをしている。	準備や後片付け、野菜の下ごしらえ等、出来る範囲で手伝ってもらっており、それぞれの残存能力を活かす場面となっている。また、利用者が食べたいものをメニューに取り入れれたり、外食に出かけたりして、食事が楽しい時間になるように支援している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調や嗜好・嚥下咀嚼状態をみて食事内容を工夫している。水分摂取が少ない方には好みの物やゼリー等を提供している。水分量や食事摂取量を記入する事で1日の摂取状況が把握出来るようにしている。		

福岡県 いちよの杜 諏訪野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前に緑茶うがいをして頂いている。必要な方にはアイスマッサージを行っている。うがいの困難な方にはガーゼにて口腔ケアを行い就寝前には義歯の洗浄消毒を行っている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンに合わせて声かけ誘導を行い快適に過ごせるように支援している。夜間も本人の状態に合わせてトイレ等の対応を行っている。	それぞれの排泄パターンを把握しており、出来るだけトイレで排泄してもらうように、誘導している。また、排泄時の言葉かけには充分気をつけて、自尊心を傷つけないように対応している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認を行い各々のパターンに応じた支援を行っている。腹部のマッサージや体操等も取り入れている。食事では乳製品や食物繊維や根菜類等をなるべく多く提供するようにしている。Drの指示により緩下剤の服用の方もいらっしゃる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者からの希望がある場合は時間帯や日時の調整を行っている。利用者の入浴したいタイミングも職員と情報を共有しながら支援している。危険回避の為に夜間入浴は実施していない。	お風呂は毎日沸かしており、利用者の希望に応じて対応出来るようにしている。入浴拒否がある利用者もいるが、2日に1回は入浴してもらえるように、言葉かけを工夫しながら入浴を促している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのその日の状態に応じて休息して頂き安心して眠れるように室温・寝具等の環境整備も行っている。体操やレクリエーション参加を促し心身共に気持ち良く眠れるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報を個人ファイルへ綴じ込んでおりいつでも確認出来るようにしている。服薬の変更等についても情報の共有ができるようにしている。介助が必要な方へは口中投薬を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴等を把握して得意な事や好きな事が出来るように支援している。実際に利用者が調理した1品を提供した事がある。また、季節感を感じたり気分転換が出来るように散歩等の時間も提供している。		

福岡県 いちよの杜 諏訪野

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>外出の希望については出来る限り対応するように配慮している。散歩や買い物、更にはホーム行事として花見や法人内での運動会へも家族と共に参加して頂いている。</p>	<p>外出については、その日の体調や天気に合わせて支援している。どこかへ行きたいという希望があれば、なるべく対応するように心掛けている。先日も「新幹線に乗りたい」という希望が出たので、家族に協力してもらい、それを実現させた利用者がいる。</p>	<p>現在のステップに向けて期待したい内容</p> <p>現在、個別での外出支援が出来る様に、徐々に取り組んでいるところである。人員の体制等で厳しい部分もあるかもしれないが、工夫しながら、少しずつでも取り入れていかれることが期待される。</p>
52		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金の所持したり使えるように支援している</p>	<p>ホームでお小遣いとして預かっているが、中には自分で小銭程度を管理されている方もいらっしゃる。買い物の希望があれば一緒に買い物へ行ったり、受診の帰りに買ったりしており、支払いも利用者さんがされている。</p>		
53		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>携帯電話を持ち込んでいる利用者もおられる。家族との連絡や知人との連絡に使用されている。時々着信等を確認し安心して使用出来るように支援している。</p>		
54	(22)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節にあった飾り物をしたり、利用者と一緒に作るカレンダーを毎月掲示している。食事用のテーブル等も一般家庭にあるような物で揃えている。</p>	<p>リビングには、利用者が作成した作品や写真等が飾られていたり、ソファーや食卓等、好きな場所でゆったりと快適に過ごせる空間づくりがなされている。</p>	
55		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングのソファーでは利用者同士話をしたり日向ぼっこをしたりされている。畳では洗濯物をたたんだりして思い思いに過ごせるようにしている。</p>		
56	(23)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>好みの装飾品や使い慣れた家具等、仏壇を持ち込まれている方もいる。壁には家族の写真や好きなタレントの写真を貼ったりされている。家具の配置も本人の希望等を取り入れて配置している。</p>	<p>利用者が自宅で使用していた家具をはじめ、利用者によっては仏壇を持ち込んでいる方もおり、自宅で過ごしている環境に近く、また、居心地よく過ごせる空間づくりを行っている。</p>	
57		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム全体がバリアフリーになっている。リビングや階段等には手すりが設置されている。車いす利用の方もいらっしゃるため移動の邪魔になる物は置かないようにしている。</p>		